（２）鈴木 恵子氏

ボランティアグループ すずの会の代表として、約20年間介護福祉に携わっている。その活動の中で、要援護者や介護者、ボランティアのつながりの居場所「すずの家」をオープンし、地域に根差した活動を続けている。

「すずの会」は、法人格のないボランティアグループとしてのスタイルを続けております。活動の始まりは、私が30代の終わりで、母と主人の両親の複数の介護が同時に始まった時期でした。当時は小学校５年と２年の子どもがおり、私を助けてくれたのは小学校ＰＴＡの仲間です。母の介護が終わったときに、「これから私たちも老後を迎える、この土地で暮らし続けるにはどうすればよいか、あなたの経験を生かしたらよいのではないか」とＰＴＡの仲間が後押しをしてくれて、「困ったときにちょっと鈴を鳴らしてくださいね」という思いを込めて立ち上げたのが「すずの会」です。

すずの会 設立のきっかけ

設立　平成7年9月
設立メンバー　小学校のPTA仲間5名

- PTA仲間の一言「介護経験を地域で活かそう」
- 「ちょっと困った時、気軽に鈴を鳴らしてください」
- 制度の手の届かない問題の解決策を活動に
- 自分たちの老後も考えたグループ作り
- 当事者の困りごとを生活者の視点で解決する
- 身近なつぶやきを実践に生かす
- 身の丈に合った実践の積み重ね

平成26年4月現在　活動メンバー65名

「すずの会」を立ち上げた平成７年は、阪神淡路大震災があり「ボランティア元年」とも言われた年です。現在は65名のメンバーで活動をしております。

宮前区野川地区の現状（中学校区）

（平成26年3月末日）

面積	2.67km2				
世帯数	11.865				
人口	28.282	男	14.279	女	14.091
高齢化率	21.52%				
65歳以上	6.087	男	2.696	女	3.391
前期高齢者	3.503	男	1.666	女	1.837
後期高齢者	2.584	男	1.030	女	1.554

75歳以上一人暮らし世帯	857	75歳以上夫婦世帯	310	計1.479

要支援１	90	要介護１	157	要介護４	144
要支援２	109	要介護２	194	要介護５	141
合計	199 名	要介護３	126	合計	762 名

宮前区の状況については、区長挨拶で区の変遷が紹介されましたが、20年前の宮前区野川地区で、「ひとり暮らしで要援護の方」「認知症の方」「くたくたに疲れている介護者」などの気になる住民がどのくらいいるか、区役所の保健師と一緒にたずねて歩きました。当時は65名いました。

「65名の方のちょっと困った声に応えられるグループになりたい」と始めましたが、現在の要援護者は約1,000人と、私たちの力がとても及ばない数字になっています。

やってみましょうよ

- 身近な人との出会いから、発見・気づき・見守り・掘り起こし・つなげる
- 地域の実情に合わせて、何があって、何が足りないのか、地域を歩き独自の工夫を探る
- この人の問題を解決するために、私たちができることを考え、活動を生み出す
- 地域住民が主体となり、行政・組織など様々なネットワークとつながり、即実行

「やってみましょうよ」と、鈴を鳴らしてくれた方にどう応えたらよいか、地域の実情に合わせて工夫をしたり、足を運んでいろいろな人の力を借りたり、行政や専門機関の力を借りながら、ひとりの人の問題を解決するためにどうすればよいかと思いながら、その人のための活動を生むために突っ走ってきたような気がしております。

すずの会の活動の広がり

開始年	活動内容	分野
1995年～	スポットヘルプ・介護相談・介護者支援	実践・個別ケア・地域連携
1996年～	ミニデイ	実践・介護予防・個別ケア・地域連携
1996年～	リフト付き観光バスを利用したバスハイク	実践・介護予防
1999年～	介護情報誌「タッチ」発行	情報・ネットワーク形成
2001年～	地域ネットワーク会議「野川セブン」	ネットワーク形成・個別ケア
2001年～	特別養護老人ホーム内喫茶「マロニエ」	実践
2002年～	介護予防「元気度チェック」	介護予防・調査
2005年～	地域マップ作り	情報・調査・ネットワーク形成
2005年～	ダイヤモンドクラブ	実践・ネットワーク形成・個別ケア
2006年～	公園体操	実践・介護予防
2008年～	ちょこっとベンチ	ハード作り
2011年～	看取りチームケア	実践・ネットワーク形成・個別ケア
2014年～	空き家活用「すずの家」	実践・介護予防・個別ケア・地域連携

そのためのネットワークづくりはとても大切でした。活動の広がりについては資料をご覧いただければと思います。介護保険の始まる前や始まった後に、ボランティアグループはもう必要ないのではないかと思ったのですが、実際はそうはいかなかった地域の実情がよくおわかりいただけると思います。

同時に、地域マップを作り、どんな方がどのような暮らしぶりをしているかを毎月調べています。団地の中の様子が非常に気になり、７年前から始めました。資料にありますのは、団地の中の地域マップです。私たちのような組織を持たないグループですと、地域全体を見渡すようなマップを作るのは困難ですが、様子が気になる方からマップを丹念に作ってつなぎ合わせ、その方の生活ぶりを見ていき、誰がどのように関わればこの方の問題は解決できるかを考えるツールとなります。

地域マップから見えてくること

●独身　●心配　●要支援　●世話役　★ラッキー

	1号室	2号室	3号室	4号室	5号室	6号室	7号室	8号室
4階	●	● 70代	● 70代	●	★ ●● 女、子2人	●●●	● 69才男	空
3階	●	●● 女	★ ●	● 60代	● 65才	●●● 80代女	● 男	★ ●● 60代女
2階	●●●	空	空	● 60代	● 60代	空	●	●● 83才女
1階	★ ● 77才女	●●●●	●●●●	空	●●●●	●●● 60代女	●	● 80代女

空室5　独居16

特に最近気になっているのは、ひとり暮らしの男性が増えていることです。地域とのつながりが薄く孤独死が多いのも、ひとり暮らしの男性です。このような方たちをどうしたら団地の方とつないでいくことができるのか工夫していたのは、この資料にラッキーマークがついている方です。民生委員などの役目はありませんが、とても気配りが上手でよく面倒を見てくれます。地域にこのラッキーマークの付けられる方がどのくらいいらっしゃるか、探していくと地域が丸く収まるのです。

この地域マップを作った団地では、ベンチをひとつ置いています。男性は対面でお話をするのは苦手な方が多いので、ベンチで横並びに座ってしまうのです。夏場は、ビールを片手に三々五々集まり、そこでぽつりぽつりと話を始めていたそうです。こんな気楽な場所がないと、わざわざ行くところには行きにくいのです。このマップのように、全体を見渡してみないと何が必要なのかわからないので、ていねいに地域を見るのによいツールだと思っています。

地域ネットワーク・野川セブン
地域包括ケアの基礎

- 地域ネットワーク会議　　2001年1月より
- 毎月1回定例会議
- すずの会がまとめ役
  自主活動団体・民生委員・地区社協・自治会・地域包括・行政・施設・ケアマネ・医療など26団体が参加
- 地域包括支援センターの運営会議もかねる
- 地域で心配なことを、皆で考え　解決の糸口を探る
- ライフプランからケアプラン　フットワークは軽く
- 得意を活かす　無理しない

元気度チェック

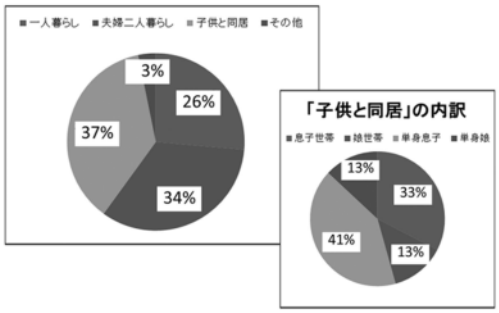
生活調査
体力測定
参加者マップ
介護予防講座
豚汁・おにぎり

ネットワークづくりは地域包括ケアの基盤となるものですが、介護保険制度が始まったときに、川崎市では「私の町のすこやか活動」を始めました。これは、私たちにとって願ったり叶ったりの事業でした。地域の自主活動団体が中心となり、いろいろな組織と手をつないでネットワークを作るもので、30万円の補助金もありました。これで、ネットワーク作りに励みました。この人のためのライフプランを実現させるにはどうすればよいか、ボランティア、ケアマネジャー、地域の施設など、それぞれの特徴を生かしてその人の問題を解決するための会議が、毎月行われています。

その中のひとつに「元気度チェック」があります。年１回、体力測定の他に行う聞き取り調査がいちばんの目的となっています。

毎年同じ調査を続けると、ご家族の状況の変化が非常に気になります。「子どもと同居」の割合が最も高いのですが、誰との同居かをみると単身息子との同居が41％でトップです。これから20年経つとどうなるでしょうか。80代の親を50代の息子・娘が面倒を見るという「8050危機」が始まっていることを、野川地区で証明しているようなものです。

ご家族の状況



「ミニデイ」は19年前から行っており、男性の参加者が多いのはボランティアの魅力に惹かれているのではないかと自負しております。近所の施設からも、重度の認知症の方も集える場所になっております。

つぶやきを形にした「ミニデイ」「認知症介護者との出会いから」

開始　1996年1月
場所　野川いこいの家
毎月　第2水曜・第4火曜　10:00～15:00
- 要介護者の参加(平均介護度2．5)
- 一人ひとりの状況把握
- 情報提供
- 日常のつながり、顔なじみに発展
- 参加費　500円
- ボランティアの生きがいの場
- 施設からも参加

男性の参加が多い「ミニデイ」

一人暮らし男性はボランティア

認知症になっても安心な
参加場所

ご近所サークル
「ダイヤモンドクラブ」

- チームケアの原点
- ちょっと気になる人を仲間に
- ご近所単位　5名以上の集いの場
- 有志が自宅を開放
- 緩やかな関係作り
- 悩みもさりげなく
- 助け合いのできるご近所
- 開催は年3回以上自由に　決まり事は少なく
- 会費100円　　会場費　1回2000円上限10000円

月２回の「ミニデイ」だけではつなぎきれない方を、身近なご近所でつないでいくことを考えて作ったのが、「ダイヤモンドクラブ」です。これはサロンではなく、ご近所同士のお茶飲み会ですが、ちょっと気になる人を必ず１名仲間にすることが条件です。

現在は、野川地区約20か所で行っています。これは、毎年やらなくてもよいことになっています。近所付き合いの基盤ができて、定期的にお茶飲みをしなくても顔見知りになればよいのです。

今までにやったことがある場所を入れて数えると、60か所以上になると思います。介護者宅でのお茶飲みや、資料のチームHのように家で看取りをするお手伝いをしたグループもあります。昨年は11名の看取りを、近所の方を交えてお手伝いさせていただきました。

重度の病気を抱え医師からは在宅生活は無理だと言われていた方の在宅生活をお手伝いするチームUでは、支援を受けている人にも大きな役割があります。毎朝、ベッドサイドから見えるガラス戸越しに、子どもは「行ってくるね」と声を掛けていきます。シングルマザーたちはちょっと疲れたときには、ベッドサイドに立ち寄り話をしていきます。この方は、いつもここにいることで、さまざまな役割を担っています。

都市部でヒット「ダイヤモンドクラブ」

【平成26年度】
・個人宅　20ヵ所
　151回　1978名
・集会場、商店の店先など居場所　4ヵ所
　定期的に開催

介護者宅でお茶のみ

チームH
家で看取る　その後・・・

チームU
家族の決心　医療・介護・ご近所

男介の時代
つながりにくい？息子介護

男性介護者は3割を超え　6割はシングル息子介護者

独身息子の介護について、つながりにくさは大きな問題となっています。このような人は、これから宮前区にもどんどん増えると思います。

周りの人とつながりにくい方を、私たちがどうつないでいくか考え、重度になった場合や経済的困難になった場合に受け止める場所が欲しいと思い、昨年から始めたのが「すずの家」です。すずの会19年目の大挑戦です。毎月の家賃10万円の工面に追われながら運営している最中ですが、皆様からは非常に好評をいただいています。

2014年4月オープン
「すずの家」

「すずの会」設立19年目の大挑戦！家賃10万円の捻出

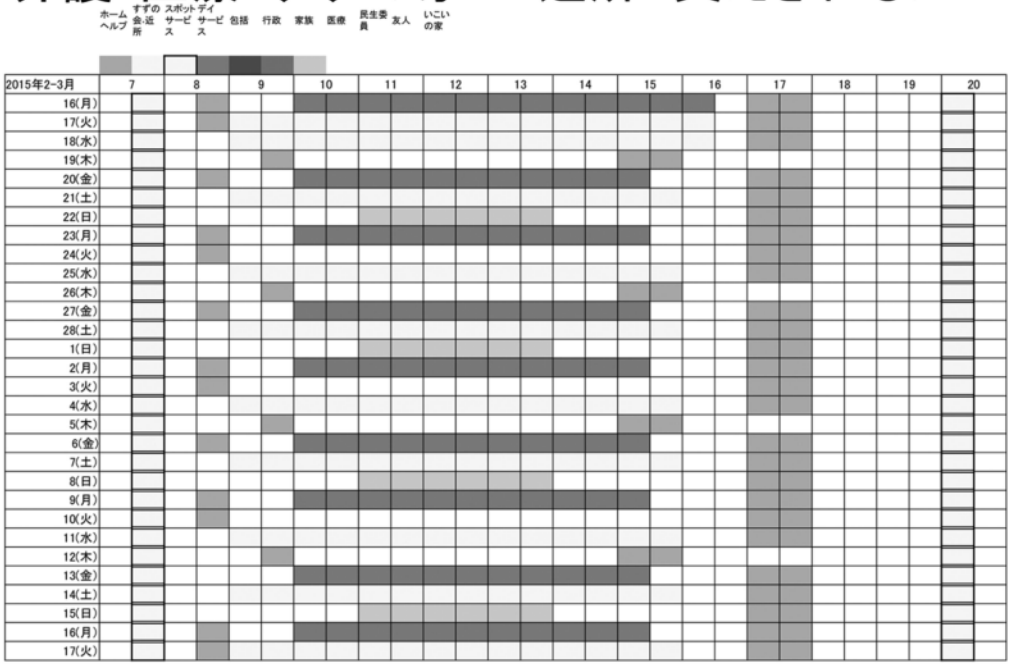
「すずの家」

毎週　水曜土曜開催

2014年6月～8月
川崎市介護予防推進
モデル事業受託
要支援対象の総合事業

委託内容
・利用者　一人　2250円
・送迎　650円
・モデル　10名
・ケア内容
送迎・入浴・運動・講話

事例：次郎さん
介護・医療・すずの家・ご近所　支えきれるか？



昨年度のうち３か月間は、川崎市の介護予防推進モデル事業として運営をしました。介護保険法改正に伴う地域支援事業はボランティアグループでも大きな担い手になると思い、挑戦をしています。これを皆で何とか運営していかなければいけないと思っております。

現在、研究事業として行っているものですが、認知症のひとり暮らしで年金収入は62,000円程度しかなく、介護保険も十分利用しきれない人たちをどう地域で見守っていけるのか。家族が手を放してしまっている場合が多いので、家族にどうやって振り向いてもらうか、サービスが整いすぎると家族が手を引いてしまうのでやり過ぎてはいけないし、最後は家族にきちんと関わってもらわなければいけません。家族にはマップを見せながら、「あなたの財産を守るためにやっているのではない」と、あまり甘い顔をしてはいけないと思いながら伝えています。このように、地域活動が中心となった支え合いの経済的効果の分析を行っています。

課　題

- 気になる人の増加
- 独居・認知症・孤立
- 家族力の低下
- 高齢者の経済力
- 介護サービスに繋がらない
- ボランティアの高齢化
- 活動の有償化

課題は山積しておりますが、気になる人はどんどん増加しています。家族力は低下し、ボランティアも高齢化しております。私たちの活動は５年後にはかなり厳しいところに来ると思いますが、どうしたら若い方の参加が得られるのか、これからますます課題の多い活動になっていくと思います。

ありがとうございました。